

よしもと 学校が抱える課題は文科省の調査でも増えています。発達障害や不登校の児童生徒などへの支援の状況はどうなっていますか。

教育長 発達障害や不登校の子どもの実情を職員が共通認識し、実情に合わせ個別対応や学校へ登校するステップとしての居場所づくり等に努めています。関係機関とケース会議を開き、発達障害を持つ子どもには「つなぎ愛シート」で継続した取り組みができるように進めています。不登校生については、家庭訪問等で時間が多く必要となります。

子ども同士のトラブルやいじめの解決は、複数の教員で事実確認をし、家庭訪問を行い、関係保護者に報告し、指導ができるように取り組んでいます。報告文書も県に提出しています。

よしもと 教員の忙しさは、本質的には国の教員定数の問題ですが、町として、業務の削減をどう考えていますか。

教育長 学校においては、業務の優先順位をつけるなど教員の意識改革を図りながら学校で協議していただくよう取り組みたい。クラブ指導の平日の休養日の設定、研究発表の指導案、報告書のさらなる簡素化を進めていきたい。

よしもと 過労死などの労働災害が起こっても、現状では勤務把握ができていないので労災認定を受けるのに毎日の勤務状況を聞き取らなければならず、多くの年月がかかります。これは、労基法上、管理する行政と学校長の責任になっています。教員の負担にならない方法で早急に導入すべきではないですか。

教育長 本町では、校務支援システムを1月に導入予定であり、出勤時及び退勤時の時刻を把握できるように研究していきたいと考えています。田辺市のように、コンピューター処理をするか、検討してまいりたいと考えています。

よしもと 最後に「図3」のように日本の教育予算は、GDP比3.1%で先進資本主義国では最下位です。教員1人の授業数を4コマ(時間)にするための予算は、GDP比の0.1%です。日本の教育予算を3.2%にするだけで教員は2割増やせることを述べて終わります。

〈質問を終えて〉

教員の多忙化について 町もこの問題については改善すべきことであると考えています。教員の定数増は国の課題なのですが、子どもたちのためにこの姿勢を持ってあたってもらいたいと思います。私は、日本の未来を担う子どもたちのために教育予算をふやし、教育条件を整え、全ての子どもの可能性を引き出し、個性が花開く環境を作るよう努めていきたいと考えています。

公財政教育支出対GDP(初等・中等・高等教育段階、対教育機関)(2015年)

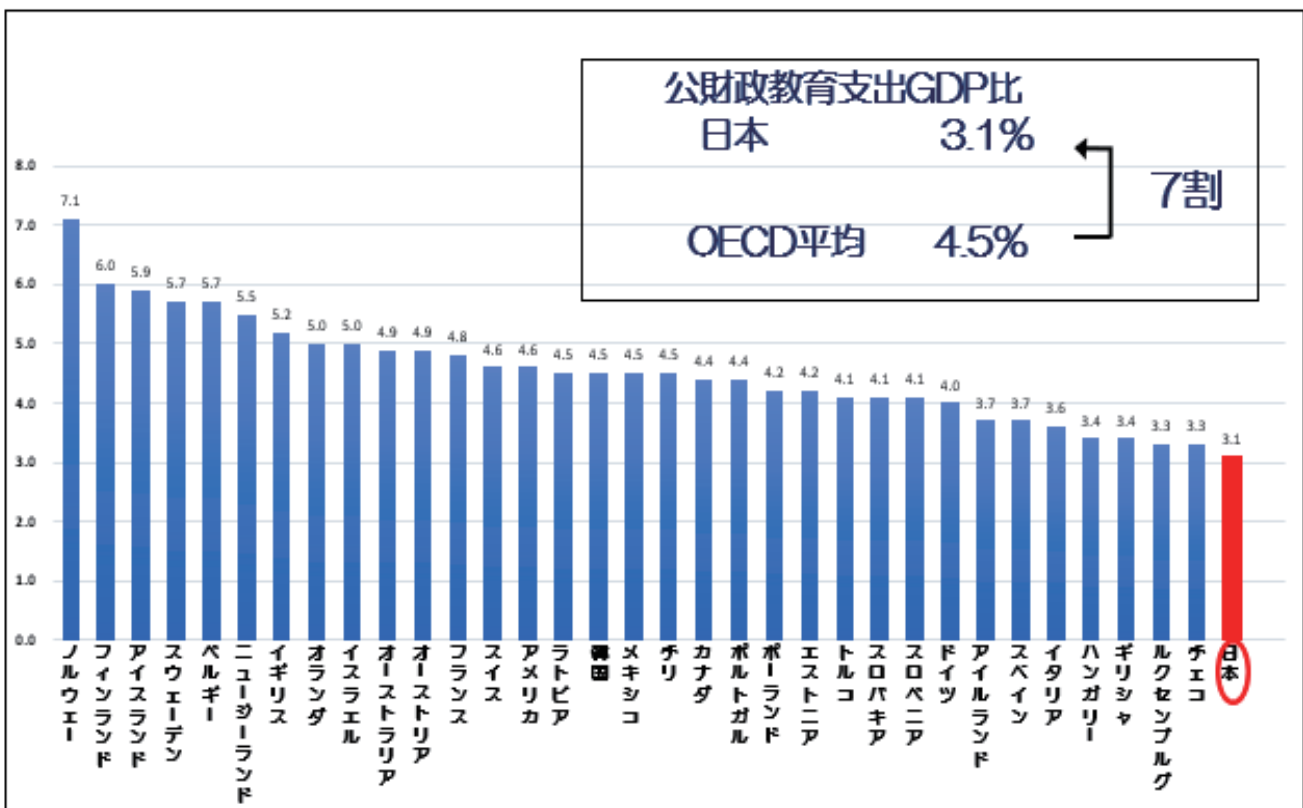


図3

議員の交通費は費用弁償ではなく、実費で支払うべきでは。
 議員が委員会や本議会などの公務で役場に来る交通費は、近隣市町村では職員と同じ交通費で支払われています。上富田町は費用弁償で1日2千円も支出されていますがこれを改善すべきではないかと発言しました。議長から議会事務局に申し入れれば議会として話し合うということでしたので申し入れました。

新コミュニティバス運行について

コミュニティバスが大型と小型の運行となり、狭い道にも入って行けるためより家の近くのバス停まで来てくれるようになります。改善された反面、「眼科は紀南病院なので、『スポーツセンター行き』を紀南病院まで行くようにしてほしい」などの要望が出ています。新しい運行経路の改善点についてご意見を聞かせて頂きたいと思いますのでよろしくお願いします。

3月議会では、くき裕見子議員が次のような質問をしました

- 一、県単化にともなう国民健康保険税について
- ・ 国保税の滞納状況について
- ・ 平成39年にむけての国保税について
- 二、町職員の現状と働き方について
- ・ 正職員の働き方とは
- ・ 災害時に十分な役割ができる職員数になっているか